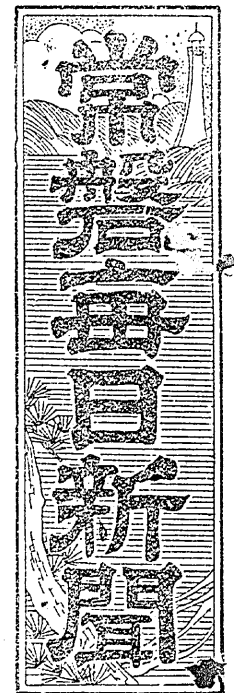


刊夕日五月三



定額一冊五圓... 廣告料五號... 印刷所 常警高日新聞社

常警高日新聞の發開と一

片寄平藏

山口彌一郎

3 唯助の石炭採掘

平藏氏の死去に依つて平左衛門は苦境を明石屋に訴へ、明石屋又舊來の取引關係より特に多大の借財を勘辨し漸く片寄家が相續されたが平左衛門翌文久元年三月死去した。

一、石炭拾六貫五百匁入三千俵
但壹俵に付銀九匁替此代金四百五拾兩也

合金貳百五拾兩也 但石炭掘出荷造駄送小名濱に而御軍艦に積込迄元代諸入用一式大丈婦之見積此内
金百兩也 牧野様御屋敷より御出金右者私方に而受取山方掘出荷造山方附出可申分
金百兩也 貴殿より御出金

大の借財を勘辨し漸く片寄家が相續されたが平左衛門翌文久元年三月死去した。唯助未だ七歳の幼少で家督を繼ぎ種々事情を知るすべしもなかつたから妹のぶの聲勇五郎が後見人として石炭採掘及び積出を續行した。文久元年九月唯助勇五郎連書に依る明石屋と石炭販賣に關する文書に次の如きがある。

約定一札之事
一、此度御軍艦御役所御用に付我等名前に而國元於小名濱石炭三千俵賣上候に付右石炭仕出方金併御代金御下候節元代諸入用引去賣徳割合對談取極候處左之通小名濱に而御軍艦差上候

但諸入用多分見込置候事存候相減候節此之益金多分相殘候儀に付御賣上けに相成候節者双方立合勘定仕益金高相定可申候
此三ッ割
金六拾六兩貳分
拾匁也 牧野様御屋敷分

金六拾六兩貳分
拾匁也 貴殿方分
金六拾六兩貳分
拾匁也 私方分
此内より金貳拾兩貴殿方先前御借用の金之内江入金御渡可申候但千五百俵丈壹俵に付銀八分宛之分

○明日の献立
○味噌汁 若芽
○煮付 大根干海老
○ビフテキ 牛肉
揚ジャガ芋

右之通御對談仕候處相違無御座候爲後日仍如件
文久元年九月
奥州岩城郡大森村
古川屋只助
同 勇五郎
明石屋治右衛門殿

勇五郎北海道に旅して其途文久三年急逝した。唯助尚ほ十歳に滿たず藩主牧野越中守様の命に依つて同藩士酒井喜八郎氏後見となり

文藝募集

其後のがに下禱國相馬郡大宿村井橋祐右衛門の二男利平を聲にとり唯助の後見人となつた斯の如き不幸の連續にて家産も全く傾いたが尚ほ石炭業を苦境中によく繼續した。

徒員募集廣告

資 格 年齢一拾三四才より拾六才位迄
學歴一尋常科卒業又は以上の事
優待方法(家族制度の外特別優待方法あり)

◎家具職として合理的製作方法を望む人
資 格 年齢一拾三四才より拾六才位迄
學歴一尋常科卒業又は以上の事
修業後の收入一ヶ月金五拾圓以上百圓位
◎御希望者は至急御面談又は御問合せを乞ふ

和洋家具 製作販賣 (本) 丸ほん商店
設計請負 製作所 平町新田前 電話一八二番

喜多流謠曲と仕舞の

お稽古をお勧め致します

喜多流 謠曲 仕舞 白土會
平町町六九 電話一二七番

耳鼻咽喉専門

平町田町七〇番地
山内醫院
醫學士 山内亨吉
電話六九一

御融通には!

是非御利用を.....
萬事便利な御相談に應じます。

三井質店

平四・電六〇六番

生徒募集

○本校二年 ○師範科
○専攻科 ○師範科
○本校二年 ○裁縫專修科二年編入
文部大臣 藤田女學校
認可
○願書受附 三月末日限り
○詳細 本校宛問合せの事
○位置 福島縣平町田町
電話三二八番

星野時計店 大特賣

可愛御子様の卒業御禮、御入學の記念には是非...
ブレゼントして喜ばれる星野の時計をおすしめ致します。

有給社員數名募集

男女ヲ問ハズ奮闘家ハ來タレ
固定給及月收多希望者ハ午前中來談アレ面會ノ上相談ス。
共保生命保險株式會社
磐城監督所
所長 福島健之
平町白銀町一〇

明治廿八年設立 基礎堅實

磐東代理店主管 加藤 丈夫
平代理店 主管 金子 豊吉

高久病院

院長 醫學士 高久 忠
副院長 新潟醫學士 赤羽 清
藥局長 藥劑師 佐竹 菊雄
平町田町 電話五一三番
内科小兒科 外科花柳病科
耳鼻咽喉科 レントゲン科

月曜是非

刑餘者への慈愛

平刑務所其他の主催で近く平町に『人心劇』が開演される、是れは刑餘者に對する一般人の同情心涵起の手近な方法として催される演劇である。

讀み人は忘れたが『慈悲の眼に憎しと思ふものぞなき、罪ある人ぞなほあはれなれ』といふ歌がある、刑餘者達は社會の種々な欠陥や行き違ひから生じた氣の毒な人達が多い、此人達を社會が徒らに白眼視する事は、不遇の人を一層罪の深みに落込ましむる結果となす相互扶助の信念に基いて刑餘者に同情心を持つ事は社會人の義務である、而して徒らに義務であり、權利であるといふ様な冷かなる水の様で理屈一遍の同情は眞の同情とは云ひ得ないであらう、現代社會の種々紛糾した問題を解決してよりよく、より清く、より美しい生活にするには、理屈抜きの慈悲心を目標として互ひに勵んで行くより外はないと思ふ、理屈一遍から起つた慈悲は無味乾燥に流れて慈悲の本体たる温か味が自然と薄くなつて來る、茲に我々は小さい囚れた自己を離れて、絶對平等の慈悲を目標として修養を積む事に依り、小さい自己が擴充し、終には世界宇宙大にも充滿する事になる、吾人は此点から考へ、刑餘者への同情慈悲が理窟

抜きのものであり度い、そして此の慈悲心の實際的現れとして『人心劇』の入場者が多數である事を望んで居る

小學校費が

論議の中心

第三校の二學級増加を取り止め

委員會の修正なる

九年度の豫算案は大体に於いて無理な個處がない爲めに委員會でも多くの修正を見ずに済んだが、

歳出に於いて小學校費が昨年よりも二千廿七圓の膨脹を見て居る爲め種々の論議の中心となつたらしい

是は通學區域の變更に依り鐵道官舎、南白銀町、四丁目、南町、大町等の兒童が第三小學校に編入され同校が二學級増加する結果からであるが尋常五年兩學年の

生徒は上級學校への

進級を控へ、通學校の變更されるは種々教育上の影響ある處より變更區域の兩學年生徒を従前通り第一、第二兩小學校に通學せしむる事とし第三校の二學級増加を取り止めた爲め經費の節減を來し小學校費の豫算届經常部七萬八千六百六十六圓を七萬六千四百十二圓、

臨時部 三千九十圓を

二千七百卅四圓と改め二千圓以上を浮べたのが主なるものにて其他は町長報平町豫算委員會は二三の兩

日町會議室に開き萩原義雄氏委員長席に着き

- 花澤 佐々木 堀 川崎 關内 根本 多田井 馬目(雅) 佐藤 坂本 酒井 吉田(寅) 鈴木

委員會修正通り

豫算案決定

本日の平町會

平町の豫算町會は休會明けの本日午後二時より開會豫算委員長萩原義雄氏より別項の如く委員會の經過に關する報告あり坂本隆藏氏より委員會の二學級減に反對し一學級減に止めた旨の動議出で鈴木議員是れに賛成した爲め議題となつたが此の動議に對する反對意見續出一應休會し再會後議長は採決を圖り委員會の報告通り二學級減が多數を以つて可決豫算案全部は委員會修正通り確定、附隨した議案其他を全部議了し都市計畫委員は議長の指名に依り井上茂作、野崎滿藏、萩原義雄の三氏に決定した次いで決算委員長吉田五平氏の報告を認めて午後四時散會した

村道改修陳情

悪路の鹿島村

鹿島村字走熊より江名町に通ずる村道は最近破損甚だしく降雨毎に出水交通止絶の止むなきに至る有様なので同村では是が改修を明年度匡救事業として行ふべく同字區長青木清太郎氏が本日平土木監督所に陳情した

平町の職工賃金

平役場調査

平町役場で最近調査した市内に於ける各職人、工人の平均賃金は左の如くである

Table with 2 columns: 職別 (職業) and 賃金 (Salary). Includes categories like 農家日雇, 職別, 塗師, 染物職.

Table with 2 columns: 平町人事 (Hirayama Personnel) and 回出生 (Returnees). Lists names and addresses of residents.

印刷御用命 常警日印刷株式會社 電話三六〇番

小店員數名募集 年輪十五才ヨリ 優遇 御希望ノ方ハ午後一時ヨリ本人御來談下サイ 平町田町一七 レストランサロン 電話三五二番

美味! 芳醇! 宗正らひた 山崎合名會社 電話一〇番

平町外十二ヶ村

青年團聯合總會

意見發表の入賞者

既報石城聯合青年團第三方面部平町外十二ヶ村の總集會は昨日午前九時半より平町聚樂館に於て開催先づ會長篠山廉氏の開會の辭に次いで國歌を合唱詔書及び令旨奉讀郡聯合團長の告辭あつて協議に移り平町青年團の提出題たる「新興滿洲國皇帝陛下御即位奉祝の件を滿場一致で可決直ちに滿洲國に奉祝打電し後各分團員の意見發表劍道試合等あり終つて相馬農藝學校教頭荒

郡下の匡救事業は

殆んど竣功を告ぐ

目下各町村とも事務整理中

平土木監督所管内の八年度匡救事業は昨日竣功せる赤井村茨川改修工事の竣功によりて同管内の道路河川兩方面の匡救事業は殆んど竣功し目下各町村共工事事務の整理中である、尙小濱豊間等の港灣工事も近く竣功する筈でこれにより八年度匡救工事は一段落を告げる譯である

内郷大越會講演 内郷村大越會では明日午前十時より同村淺野記念會館に於て例會を開き福島縣隊區司

幹部講習會(左記順序で開くが福島商業學校長近藤節太郎氏講演をなすと伊勢神宮、宮城遙拜、國歌合唱、詔書、聖旨奉讀團長挨拶、來賓祝辭、議事、講演

川靖氏の「時局と經濟」と題する講演、餘興の映畫あり午後四時閉會したが出席者千餘名頗る盛會を呈した因に意見發表は審査の結果入賞者左の如く各賞品を授與された

- (一等) 現貨日本民族の使命内郷 木幡清興
- (二等) 滿洲國に派遣されて 高久 藁谷久太郎
- (三等) 額に汗して 夏井 青木徳寧

平署去月の

検挙件數

平署で去月中に取扱つた犯罪件數は検挙數が百九十六件、人員九十三名で昨年同期の百卅五件八十名を突破して居るが最高は窃盜の九十七件二十二名、詐欺三十一件十八名、横領十七件五

三浦君の奮闘

遂ひに効なく

仙臺の佐藤君優勝

さのふ卓球選手權大會

既報平卓球協會主催大塚運動具店後援の第一回關東北個人卓球選手權大會は昨日午前九時より平第三小學校講堂に於て開催試合はA Bの兩コートに分かれて舉行出場選手は東京、仙臺、福島、水戸、日立等よりの遠征者を合して七十餘名いづれも強豪揃への事として接戦に次ぐ接戦を演じ結局平税務署の三浦君對仙臺市宮城銀行佐藤君の決勝戦となり三浦君は周囲の聲援裡に石城卓球界の名にかけ最後迄奮闘したが遂に遠來の客に名をなさしめて惜敗優勝旗及びカップは一般觀衆の拍手裡に仙臺の佐藤君に授與された因に準々決勝よりの

戦績は左の如くである

△準々決勝

仙臺小島 2	3 平	三浦
日立大竹 3	0 平	山下
平 信澤 3	0 福島中山	
仙臺佐藤 3	1 平	目黒
▽準決勝		
平 三浦 3	2 日立大竹	
同 信澤 1	3 仙臺佐藤	
△決勝		
仙臺佐藤 4	2 平	三浦

排水工事で

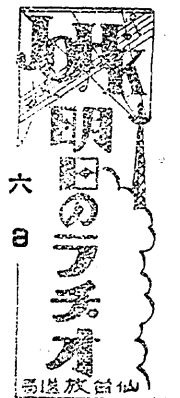
交通禁止

平町では目下二丁目地内西村商店側より田町に通ずる道路の排水工事を施行の爲め同道路は本五日より廿日迄一般往來止めを行ふと

石城郡女青

幹部講習會

合女子青年團では明日午前十時より平第二小學校講堂に於て



明日のラジオ
今夜は南西の風
明日は西北風の
小雪模様

今晩の部

- 後六、〇〇 子供の時間
- お話「ベスタロッチ先生」
- 廣島高師教授村敏夫
- 後六、二五 英語講座(三)
- の四)堀英四郎
- 後七、三〇 講演「産業統制の國家的意義と社會的批判」大阪商科大学々長河田嗣郎
- 後八、〇〇 聖言山 新交

響樂團練習所より中繼
後八、四五 映畫劇「日本女性の歌」栗島すみ子外大勢
後九、三〇 時報 ニュー氣象通報 番組預告

明日の部
前七、〇〇 基礎獨語講座(二十四)橋本忠夫
前八、〇〇 信洲善光寺一

光三尊阿彌陀如來(實況(仙臺驛前より中繼)
前九、一〇 料理献立「マカローニライス」阿部や
前一〇、三〇 婦人講座「地久節を壽ぎ奉りて」本野久子
前一一、〇〇 日支事變戰役者大祥忌大法要實現
仙台市公會堂より中繼
親修信州善光寺別當大勲進水尾大僧様
後二、〇〇 家庭大學講座「新日本畫の描き方」七望月春江
後五、〇〇 滿洲より
後五、三五 法津講座親族

磐炭で日給増額

從業員三千名に五錢宛

内郷村磐炭炭礦では本月一日より金山從業員三千名に對し日給五錢宛の値上を實施したので從業員は大喜で居ると

人妻家出

夫から搜索願

茨城縣鹿島郡大谷村字下大

同僚の時計を窃取

不敵な坑夫平署に御用!!!

赤井村大字西小山字三島福島炭礦坑夫那摩郡奥川村字仲町生れ岩崎千代美(三三)は去る二日午後八時頃福島炭礦第二坑脱衣場内で同僚大里豊(九)のオーパーより時價二十圓餘の金側時計を窃取した事發覺目下平署で取調中である

白井翁葬儀

稀れな盛葬

既報白井博之氏の葬儀は四日午後二時より小川村自宅に於いて執行、生前各方面に於ける功績を語る花輪處狭まき迄に飾られ參會者多

平職界紹介所報告

- △求人求める方
- △商店難役 二十三十才迄 尋卒月十圓位
- △蒲鉾製造 十七八二十五才迄 尋卒 月八圓 十圓位
- △商店員 二十才位 高卒 月十圓位
- △商店難役 十六七才 尋卒 月十圓位
- △回職を求める方
- △事務員 二十才 高女卒
- △事務員 二十七 商業卒
- △看護婦 十六才 高卒
- △看護婦 十六才 高卒
- △給仕 十六才 高卒



【禁無斷轉載上演映畫】

寶井馬琴 山本英春 畫演

第百七十二回 徳川家に崇る村正

計略圖に當る

甲「オウ留や、見ろあの十
二びんを頼に障るぢやねえ
か」
乙「なんだい十二びんと言
ふなあ」
甲「分らねえな武士が四人
居るから十二びんだ」
乙「下らねえ事を云ふな」
甲「何しろ可哀想ぢやねえ
か、好い年増だ、手前は日
頃から江戸ッ子だ、俠客だ
とか云つて威張つて居るん
ぢやねえか、こう云ふ時に
一肌脱いてあの女を助けて
やつたらどうだ」
乙「そりやお前に言はれる
までもねえ、俺だつて考え
ねえ譯ぢやねえが、生憎親
父の遺言で武士と病犬は避
けて通ることにして居るん
だ」
甲「チエツ意久地のねえ野
郎だな」
乙「人のことを言はねえで
お前を口を利いてやつたら
どうだ」
甲「俺ア軍師だ、大将だの
軍師なのといふものは自分
で彈丸の先へとんで行くも
のぢやねえ、おもむろに軍
略を考へて指揮をするんだ
……」
乙「お前えの軍略は餘りな
いたのか」
甲「俺とお前と喧嘩をする
それも二人切りぢやいけね
え、そこらに居る人を皆説
きつけて喧嘩の仲間へ入れ
ちまうんダ」
乙「へ何で喧嘩をするん
ダい喧嘩の原因は」
甲「原因なんざあ何でも構
はねえ、ワーツつてんで騒
いちゃうんダそうすりや向
ふの武士も此方の方へ氣を
取られる、その中にそつと
あの親子を逃びそうんだ」
乙「成程そりや面白さうだ
巧く行くかな」
甲「とにかくやつて見ろ失
敗したら又何か考へる」

心が出来ねえ、この前だつ
てそうダ、吉原へ遊びに行
つた時も俺あ金がねえから
素見して歸らうとするとお
前が軍略で、安く上げて見
せると云ふから任して置い
た處矢張り始末が付かねえ
で馬を引いて歸つて來た事

さう思へ」
乙「何を生意氣なことをぬ
かしやがるんダ」
△「それ喧嘩ダ、ワーツ」
と大勢で騒ぎ立てた水上
五太夫が等がしきりに女を
弄つてゐるとこの騒ぎ
五「何ダうるさい奴等ダ喧
嘩をするなら彼方へ行つて
やれ」
甲「何ダと、何處で喧嘩を
しやうと大きなお世話ダ」
五「汝、不埒な奴、ソレ各
々追拂ひなさい」
本「心得ました」
と本多横澤白旗の三人が
脅しのために刀の柄に手を
掛けて向ふとする、此方は
大勢を頼みに石を拾つてバ
ラ／＼と投げつける
横「ア、痛い」
本「これは怪しからん」
白「あ、痛い、手前の頭へ
三ツ當つた」
勘定してゐるその内の一
つが水上の頭へ當つたから
奮然として五太夫ガラリ一
刀を引き抜くと
五「武士に對つて石を投げ
るとは不届千萬、斬つて終
ふぞと追ひかける、ソレ
逃げる、抜いたから逃げる
……」とドン／＼逃げ出す
四人が彌次馬の後ををひ掛
ける、其の間に茶屋の爺が
爺「サアお新造さん、今の
中に早くお逃げなさい」
女「有難う存じます」
と子供を背負つて一生懸
命ドン／＼逃げて終つた、
水上等四人が歸つて來ると
女の姿が見えないから
五「コレ／＼爺、今の女は
どうした」



があるぢやねえか、それが
爲めに俺ア親方からウンと
油を絞られてしまつた」
甲「アハ、あの時は失策
つたな、てきもさる者計略
の裏を掻かれたが今日は大
丈夫ダ」
乙「ぢや何か好い考へが附
くと土手ッ腹蹴やぶるから

それから近所に居る人に
話すと「宜しいお手傳をし
よう」といふ者が大分出來
た
甲「サア宜いか始めるぞ、
サア矢でも鐵砲でも持つて
來い、マゴ／＼しやアがる
と土手ッ腹蹴やぶるから

爺「左様でございます、貴
方様が太勢の方へ向つてお
出になるとあの人は直ぐに
逃げてしまひました」
五「ナニ逃げた、何故掴
ない」
爺「それでも旦那方が掴
て置けといふお頼みもござ
いませんでしたからもう御
用の濟んだものと思ひまし
て打ち捨て、署きました」
五「それは怪しからん、何
方へ逃げた」
爺「向ふへ逃げました」
と反對の方向を教へた
五「ソレ各々遠くは行くま
い、つかまへて來なさい」
本「畏まりました」
三人が追ひ掛けて行つた
がもとより居ない、據ろな
く四人は道場へ立戻つたが
サア水上五太夫、不思議と
女のこと忘れられない、
柄にもなく戀病ひといふ奴
で毎日自暴酒ばかり呑んで
寝てばかり居る。

ほしやなぎ
いかの鹽から
鱈魚の子
魚問屋
店理代平命生本日大最優最
榮盛賀志
(三一電)目丁四平

耳鼻咽喉科専門
鈴木醫院
醫學士 鈴木正男
平町新川町(電話一四二番)
仙臺市榮町(電話五九七番)
藤田女學校前
自炊のお需めに應ず
入院の便あり

旭硝子株式會社製品
赤菱印
板ガラス
硝子食器
其他各種
松崎硝子製作所
平町新川町(電話一四二番)
仙臺市榮町(電話五九七番)

父博之葬儀に就ては御繁
多の處御會葬被下殊に御
鄭重なる御香奠を賜り無
忝奉存候右不取敢御禮申
上候
昭和九年三月四日
嗣子 白井一同郎
親族 一同郎